



多くの異文化に接し 「現実にある文化」と知る 大切さを学びました



もとむ
永井 亘 さん
(映像ライター)

「切れ切れに思い出すことはたくさんありますが、どれかを選んで話をするとなると、難しいですね。」これまで数多くのドキュメンタリー映画やニュースを制作してきた印象を語る永井さんが遠くを見つめます。映画からテレビへと変わり、お茶の間の主役になった時代から、数十年間、主にテレビ番組制作会社などでニュースや番組制作にたずさわり、森羅万象を撮り続けてきた、水野在住のニュースカメラマンです。

東京オリンピックのときは、アテネを出発し、史上初めてアジアに向かう聖火を新聞記者やテレビ・ラジオ記者、スチールカメラマンなど、各マスコミ代表と共に追い続け、ニュース映画の代表取材をしました。私

●現在、狭山ケーブルテレビのコミュニティチャンネルで、経験を生かして番組作りのお手伝いをしている永井さん。新・入間川小学校の建設を追ったビデオや文化財を取り上げたドキュメンタリーなど、狭山市に密着した映像を撮り続けています
●「今後も制作の映像ライター、情報の送り手として、活動していきたいですね。」と、映像による情報発信にこだわり、関わり続けていこうとする永井さんにとって、過去から未来へと引き継がれる狭山の歴史は追いかけてみたい題材のひとつです

「サミットや総理大臣と大統領の会談、暗殺事件の犯人逮捕のニュースなどでカメラを回してきた永井さんは、取材中、巨匠や著名人と会うことも多かったそうです。そういう人から得るものはさぞかし大きかっただろうと推測しますが、世に知れた名だたる人から教えるというよりも、庶民から教えるということのほうが多かった。」と言つ永井さん。それは、著名な人の難解な言葉より、身近な立場の人から身をもって教えてもらったことのほうが分かりやすく身に沁みるからだそうです。たとえば日本の巨匠と話すよりも、まだ小さい孤児が、身の回りのことをすべて一人でやってのける……そんな場面を見



「何度も危ない目に遭って取材しました。『運』に助けられた映像ライター生活です。」

たことのほうが、私は考えさせられた。今でも印象深く残っています。」とおっしゃいます。その言葉に、永井さんがその時々、冷静かつ温かな目で物事を見つめてきたことがうかがえます。

こんなふうに、自分らしい視点を持ちながらも、歴史的事実をできる限り真の姿で後世に残す、という重大な責任を負ってカメラを回し続けてきた永井さん。取材で心がけているのは、事件現場では、目は前を、耳は後ろを向いているくらいに気を配ることだそうです。そして、自分を『目にする』こと。取材対象に対する予備知識を持つことは必要ですが、それにとらわれず、そのとき感じ、触発されたことに対する瞬発力で取材することも大切です。これは、私にとって常に取材が新鮮である理由なんです。」とおっしゃいます。

「各地を歩いて多くの異文化に接し、それを『現実にある文化』として認識することの大切さ……広く言えば他人の文化を尊重することに行き着くことになるかもしれません。このことを、取材を通して学びました。そして、堅い頭を鍛えていただいた、とも思っています。」と顔をほころばせる永井さん。よく動く、鋭くそして優しい目が、これまでにいつたいたどんなものを見てきたのか……できることなら、永井さんの見てきたすべてをドキュメンタリー映画にしてみたい、と感じたひとときでした。

一人一人がルールを守り 放置自転車が一台も無い 「素敵な街」をつくりましょう

REPORTER'S EYE

放置自転車対策

【リポーター】

村野京子さん(北入曾在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民がリポートします。



自転車保管場所には、たくさんの自転車が保管されています。市から連絡があったら必ず取りに行ってくださいね。

● 問い合わせ生活環境課へ内線3691

皆さんは、歩道などに置いてある自転車(自転車)が邪魔だと感じたことはありませんか。また、買物などで、ちょっとだけ、と思い、自転車を駅前などに止めてしまったことはありませんか。そんな軽い気持ちで置いてしまった自転車は非常に危険で、重大な事故を引き起こす原因になることもあるのだそうです。今回は、駅前などの公共の場の放置自転車対策について生活環境課で話を伺いました。

市では、平成7年度に、狭山市自転車等の放置の防止に関する条例を制定して市内4駅(狭山市駅・新狭山駅・入曽駅・稻荷山公園駅)を中心とした半径約300m以内の道路・歩道・駅前広場などの公共の場所を、自転車等放置禁止区域に指定しまし

た。私も駐輪場や駅周辺で放置自転車を整理している人を時々見かけることがあります。この人たちは、市で委託したシルバー人材センターの会員で、日曜・祝日を除く毎日、駅前などを見回り、ここには自転車を止めないで、市営駐輪場に止めてくださいと指導するとともに、放置自転車に注意札を張り、それでも移動されない場合には、撤去作業をしているのだそうです。しかし、放置される自転車の数は減らないのが現状で、月に3回、自転車の撤去を行っているのですが、平成13年度の1年間で1千261台を撤去しており、毎回2トントラックがいっぱいになってしまっているそうです。撤去された自転車は市内に2か所ある保管場所に運ばれ、3か月間保管して、その間に所有者に連絡をとるのですが3割程しか引き取りに来てくれないということです。実際に笹井にある自転車保管場所を案内してもらいましたが、300台もの自転車が置いてあって、数の多さもさることながら、中には新しいものもあって、本当に取りに来ないの!と、これにも驚きました。所有者が現れない自転車は、一部を自転車商組合(狭山支部)によって整備した後、サイクル自転車として販売しています。しかし、その他の多くの自転車は廃棄処分になってしまふことがすく



これは自転車等放置禁止区域の看板です。自転車を置かないよう、注意しましょう。

残念でした。また、放置自転車の管理、保管や廃棄処分などの対策には、年間約2千200万円もの費用がかかるという聞き、一人一人が自分の自転車をもっと大切にしなければならぬと考えさせられました。

放置自転車の中には、盗難によるものが含まれており、住所・氏名を明記し、防犯登録をすることにも、しっかりと鍵を掛けるなど、一人一人が責任を持って管理することが大切です。というお話も、本当にそのとおりだと思いました。

自転車は手軽で便利な乗り物ですが、ルールを守らない一部の人が放置した自転車などは、街の美観を損ねるだけでなく、歩行者や車の通行の妨けとなります。特に、緊急車両の通行の障害となったり、歩道上の点字ブロックを隠してしまふなど、他人の財産や生命に危険を与える恐れさえあるのです。

環境に優しく、健康にも良い自転車は、これからますます利用されると思います。放置自転車をなくすためには、一人一人がマナーを守るということが重要だと感じました。